繪本
隅田川
兩岸一覽
下

721.8
Ka723s
W

721.8
Ka723a

国立国会
41.3.31
図書館

住友務氏寄贈書

691229

向嶌此時雨
花川戸の冬篭

松齋
千代住

村雨
雪の
おくれ
ほしくなき
秋の
猿の
簑
ほしけ
なり

壺鶯樓
可知輔

鶯も
花にて
雪れ
冬ごもり
江戸
ふしこふ
助六の
宿

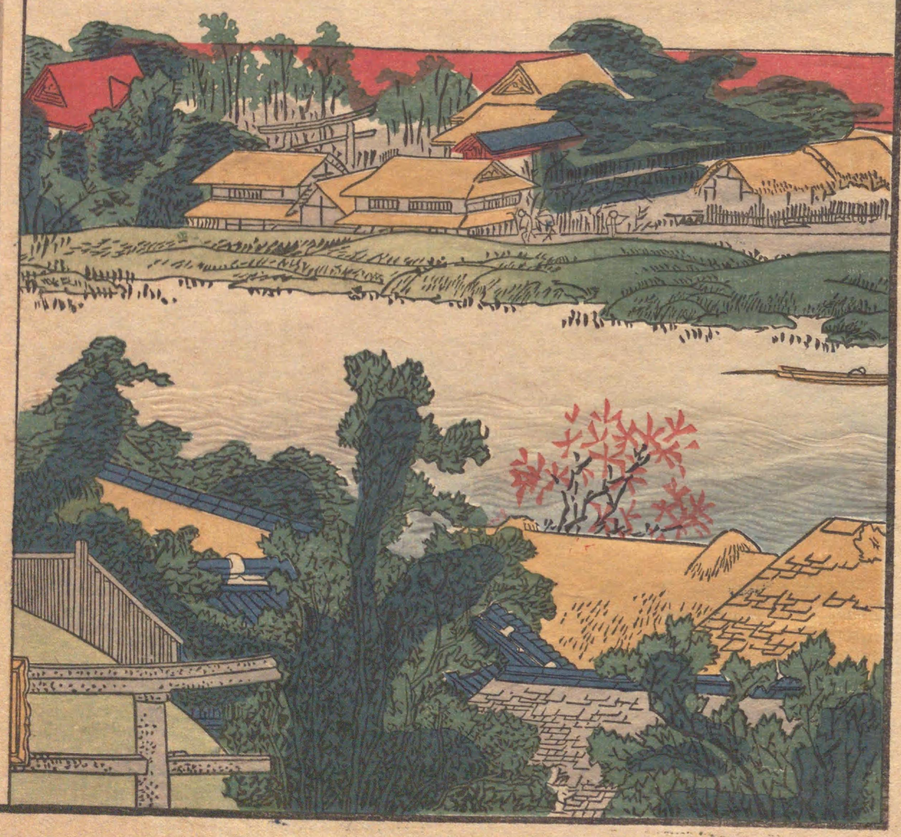
下ノ一

貢筆庵
都世喜

生の乳山
ふるまの
日和ノ宮あて
居候は
せぬ
乾のくり
ふ松

ふるまの
あのりは
たてて
夕くれて
宮を
まつちれ
山乃
下茶屋

貢章菴
穴丸

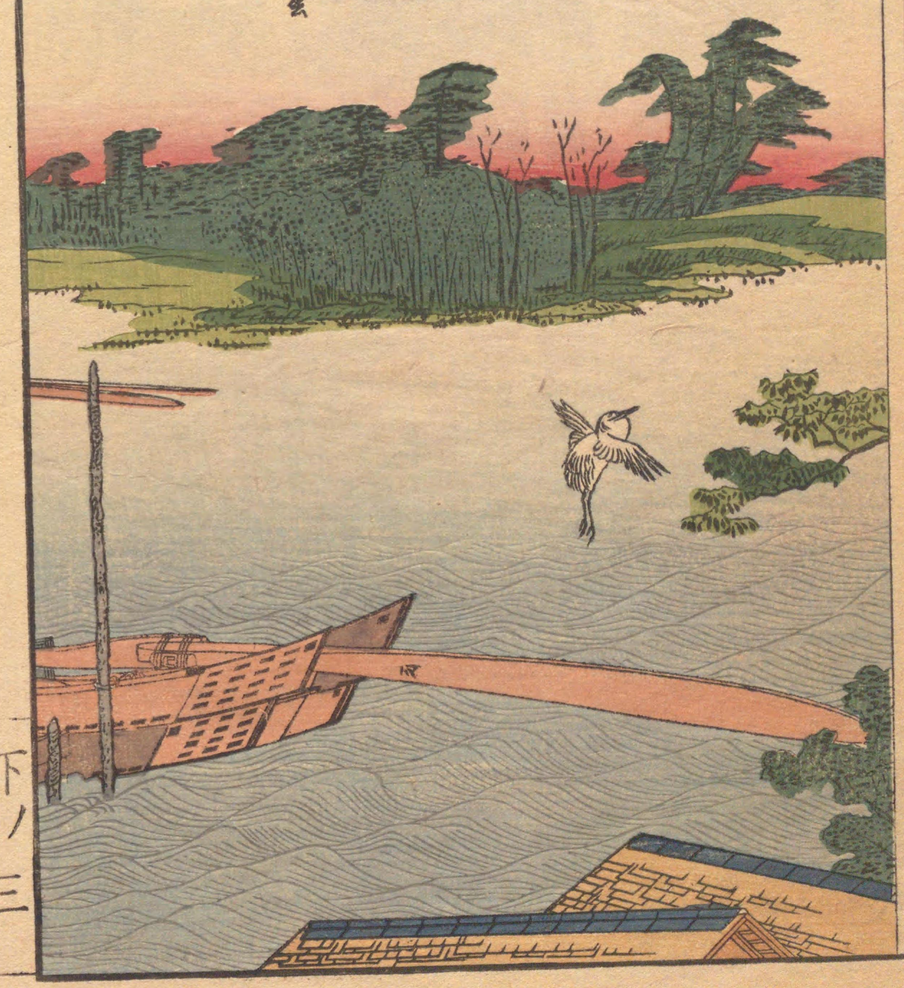


下ノ二

壺春樓
道成

白髪の翌松
今戸花夕烟

瑞籬
久亜



下ノ四

遊友館春道

三谷竹田家
京
一瀬亭平丸
壺琴樓道成

下ノ六

壺山樓
高喜

吉原の終年

大正六年一月十五日印刷
仝　一月二十日發行

編纂者　久保田米斗
東京市京橋區新榮町五丁目三番地
風俗繪卷圖畫刊行會代表者

發行者　林逢之助
東京市京橋區新榮町五丁目三番地

印刷者　本橋貞次郎
事務所電話京橋二九九番
編纂部電話京橋六九七番

水版彫刻師　大塚祐次

製本師　鈴村貞次郎

風俗繪卷圖畫刊行會
東京市京橋區新榮町五丁目三番地

發行所　吉川弘文館
東京市京橋區新榮町五丁目三番地
電話京橋二九九番
振替口座東京二四四番

發行所

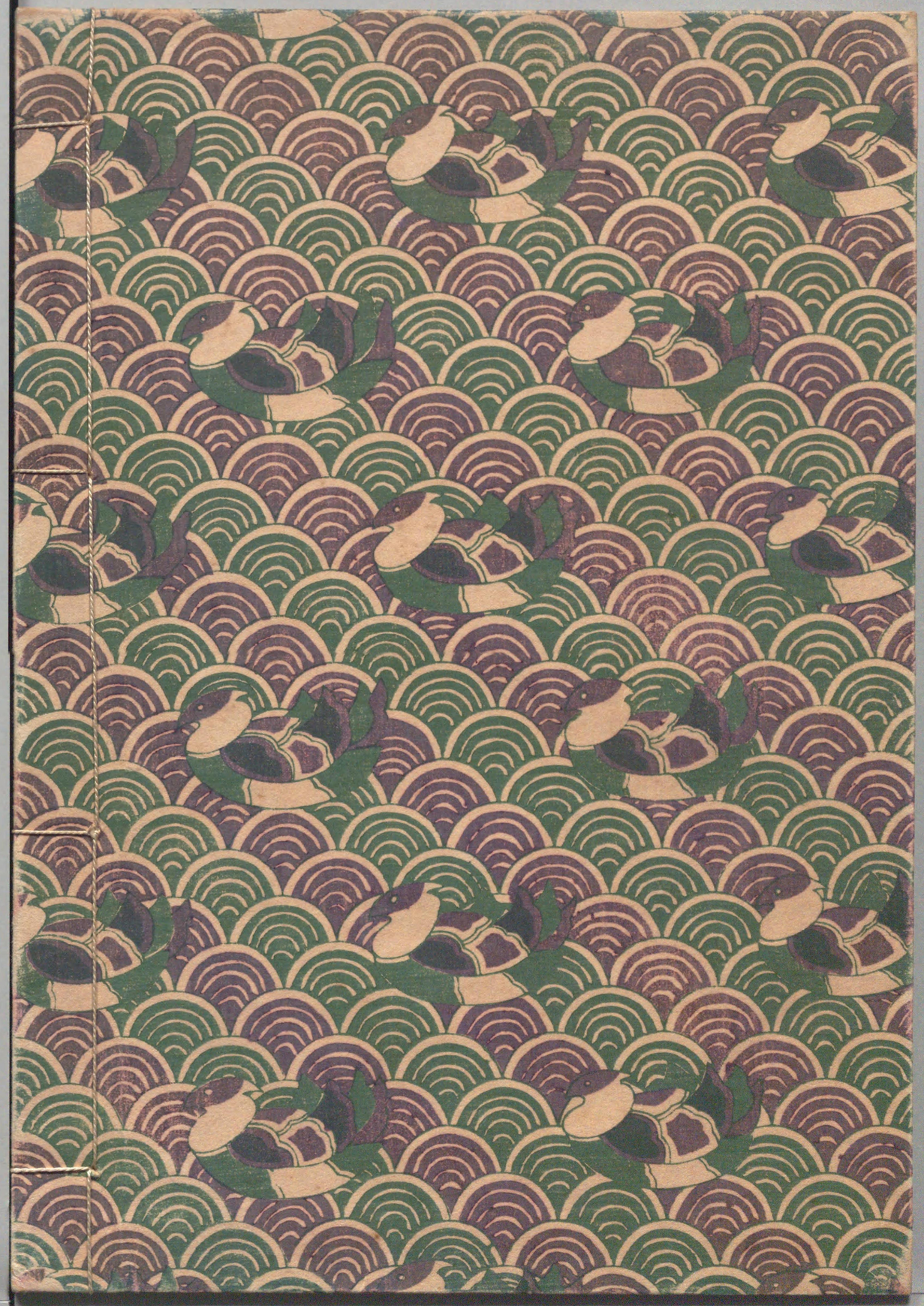
隅田川兩岸一覽に就きて

古き伊勢物語の和歌、英一蝶の小謡、服部南郭の漢詩を引用するまでもなく、一たび夕ぐれの端唄を口にすれば、三尺の童子も直ちにそれと知るなる隅田川は、其源泉を信濃、甲斐、上野の三國の山谿より發して、瀧となり、湍となり、巖を超へ、石を飛びて落ちたる水の相聚り、流れ〳〵て武藏の橋場、今戸の邊りに降り來れば、宮戸川、或は淺草川と呼ばれし名は昔となりて、今にては隅田川、又は大川などゝ稱せらるゝのみなり、この沼々たる河流に關する、歷史、傳說、風流韻事、さては春風秋雨に際して諷詠せられたる詩歌の類を列擧せんは、恰も其水の汪洋たるが如く、容易に盡くすべき業ならざれば、姑く其處に筆を染めざるべし。

元來、兩岸一覽なる命題は、本書の創作にあらず、これより以前の天明元年に、岡澤蘆水の筆にて、大江を挾める左右の景物を描き、澤田東江の題字を添へたるものに、此名を冠して版行せられたるものあり、本書は蓋しそれに倣ひしなり、されども蘆水の專ら風景を主としたるに對し、葛飾北齋は寧ろ風俗人物を寫すに重きを置きて、其構圖を新たにしたれば、內容に於ては兩者相混同すべくもあらず、互に特長の發揮せられたるものありといふべし、本書は單に隅田川に影を蘸する橋梁、樹林、堂塔を寫すに止まらず、人間四時の行樂をも併せて仔細に畫きたれば一種の江戶年中行事の畫卷とも見るべく、當時の風習の紙上に躍如たるものあり、殊に其畫は北齋晚年の作品に散見するが如き甚しき誇張、奇癖等を存せざれば、北齋が揮灑したる、多くの繪本中にありても、優秀なる佳作の一に數ふべきなり。

大正五年十二月初旬

風俗繪卷 圖畫刊行會識



隅田川両岸一覧

721.8-Ka723s
1200600611352
集約済 3冊

721.8
Ka723x